

峰のひかり

発行人

社会福祉法人 七峰会

理事長 大平 和夫

〒036-8356

青森県弘前市大字下白銀町21番地8

電話 (0172) 33-8861

FAX (0172) 33-8862

地域とともに

「初めての試み」

障害児入所施設もみじ学園
児童指導員 古川 智也

一昨年までは青葉寮、もみじ学園と合同で行っていたオータムフェス。このコロナ禍の中では合同行事も自粛せざるを得ません。

もみじ学園では代替え行事として今年は『かくし芸大会』を行いました。当施設の大きな行事のひとつでもあり、利用者さんには思い出に残るよう、そういった願いから普段とは違った場所での開催を目指し、また地域社会で生活をする一員として山形公民館をお借りして開催しました。

地域共生社会の実現に向けて

弘前市北部地域包括支援センター
保健師 山中 美里

弘前市北部地域包括支援センターでは、地域住民を対象に『介護・フレイル予防』を目的とした『イキイキ体操教室』を高杉公民館と共催で毎月開催しています。この体操教室では、地域住民の介護や認知症予防を目的に①身体の機能維持増進を目的としたストレッチや体操、②心の健康維持増進を目的とした脳トレーニングを行っています。

体操は、呼吸法を意識した心地良い汗を感じられる体操で、無理なく

発表項目は様々で、歌が好きな方はカラオケ、ピアノが弾ける方は演奏会、身体を動かすことが好きな方はダンスなどを披露しました。今回の目玉であるファッションショーでは身近にある新聞紙やビニール袋で利用者さんと職員が一緒に制作に取り組みました。

思い入れのある衣装が出来上がり楽しそうにモデルウォークをする利用者さん。楽しくてたくさん笑い合った、あつという間の時間となりました。記憶にも心にも残る行事を開催できたことを嬉しく思います。

できる運動習慣を身に付けることを目的としています。体操後の脳トレニングでは、空欄になっている川柳のオチ部分を想像して自由に答えてもらうという『シルバー川柳クイズ』を行っています。このクイズでは皆さ



んなからたくさん(珍)回答が生まれそこから話題が広がり大きな笑いが起こります。この『笑い』は脳の活性化に向けた大きなポイントであり、オチを『想像する』という脳の働きの相乗効果が期待されます。

体操教室の後は、住民交流の場として茶話会を開催しています。茶話会では世間話から日頃疑問に思っていることや困りごとの相談に至ることもあり、また、皆さんの情報からスタッフの地域理解にも繋がる良い交流の機会にもなっています。この活動を通じて、地域共生社会が目指す『時には支え、時には支えられる』地域づくりに引き続き取り組んでいきます。

『食』を楽しむ

はまちの解体ショー

障害者支援施設山郷館くろい

生活支援員 木村 恵美

令和4年9月30日、山郷館くろいしは「秋まつり」で、はまちの解体ショーを開催しました。60〜70cmもある大きな魚を見るのが初めての利用者さんが多く、注目と歓声の中、あつという間に綺麗にさばかれ、美味しそうなお刺身が出来上がりました。普段お刺身を食べる機会が少ないので皆さんとても喜んで食べていました。



ハロウィンランチ会

障害者支援施設山郷館

生活支援員 小山内 理絵

10月31日、ハロウィンランチ会と鮭の解体ショーを開催しました。厨房職員の華麗な包丁さばきによる解体ショーでは、鮭の部位や切り方の説明を受けながら、普段見ることがない光景に利用者さんからは歓声の聲が上がっていました。捌いた鮭は、昼食のメインディッシュ『ちゃんちゃん焼き』として提供しました。ハロウィンにちなんで利用者さん・職員で仮装をしながら、秋の味覚満載のランチに舌鼓を打ちました。



「グルメ街道2022」開催!

障害者支援施設吉野寮

生活支援員 須藤 麻妃

利用者の皆様が毎年楽しみにしている秋の行事、「グルメ街道2022」が10月27日に開催されました。昨年大変好評であった「鮭処青次郎」が今年も登場! マグロ、サーモン、鯛、蒸しエビと握りたてのお寿司に舌鼓を打ち、他にもピザや焼き鳥、ノンアルコールビールや各種ソフトドリンクを片手につまみも頂いて、お祭りのような雰囲気の皆様とても楽しまれている様子でした。



また、今年も利用者の皆様からアルバイトを募集したところ複数名の方から応募があり、当日職員と一緒に今年のお寿司を配ったり、くじ引きの商品の手渡しをしたりと心強いアシストで現場を盛り上げてくれました。

「楽しかったね」と皆様からたくさんの方が聞かれ、笑顔で今年のグルメ街道を締めくくることができました。



勤労感謝屋食会

障害者支援施設旭光園

職業指導員兼生活支援員 工藤 敦

令和4年11月22日火曜日「勤労感謝屋食会」を開催いたしました。利用者の皆様、就労や生産活動に励み努力されていることや、日々取り組む仕事があることに感謝し、会食を通して明日への活力を養う事が目的です。

食事は、都寿司様のお料理「うなちらし・大重・握り寿司」のメニューがあり、とても満足され好評でした。余興では「イントロクイズ」を行い、皆さんの解答の速さと時々現れる「ご迷惑」に、大いに盛り上がり、終始笑顔が見られておりました。

また、施設にて勤続40年を迎えられた利用者さま2名の方が、功労を称え永年勤続表彰を受けました。

新型コロナウイルス感染症の影響が続いていますが、今回の屋食会を通して就労意欲の向上と、楽しい時間を過ごす事ができました。

来年も利用者皆様が「勤労感謝屋食会」に参加出来る事を願っております。



シリーズ「かだる」

障害者支援施設山郷館くまじい

生支障員 榎引 奎杜



平成31年4月に採用され、勤務が4年目になりました。今では後輩職員もでき、教えなければならぬ立場になってきたので、今後は自分のことだけでなく、周りの職員と連携もできるようにもっと頑張りたいと思います。私が日頃から仕事と生活を両立する

利用者さん紹介

デイサービスセンターわかば

管理者 小山内 猛

令和3年10月から『デイサービスセンターわかば』へ通所されている絵画が趣味な利用者様の齋藤重正様をご紹介します。齋藤様は、若い時から風景画を描くことを趣味としてきており、これまで絵画展への出展をしたりと絵画に関して熱心に取り組まれてきた方です。『デイサービスセンターわかば』に



上で大事にしていることは、「オンとオフ」を切り替える事です。休みの日は友人とドライブに出かけたり、家族と海へ釣りに行くなどして気分転換をしています。他には、趣味の料理を楽しんでいます。最近では釣ってきたアジを自分で捌き、フライにして家族に振る舞いました。これからも仕事と趣味だけでなく、新しいことに挑戦する気持ちを忘れずに取り組んでいきたいと思っています。



通うようになってからも、絵を描くことは継続しており、自宅では色鉛筆を使用した絵画等を、デイサービスセンターわかばに通所した際は、ホワイトボードに岩木山の絵を描き風景の変化を少しずつ書き足していく等して過っています。描いた絵は、事業所内にも飾っていただいておりますので、機会があればぜひご覧いただければと思います。これから健康的で充実した日を送ってほしいと思います。

おらほのメニュー



「旬を食す」

障害者支援施設拓光園
管理栄養士 館山 郁子



当施設では、椎茸栽培のほか、昨年度より農作業にも力を入れています。収穫した椎茸や野菜は無人販売所で地域の方々へ販売しているほか、給食で炒め物や煮物、和え物などに使用しています。今年も食用菊の栽培にもチャレンジし、大量に収穫できました。先日、利用者さんと一緒に収穫した花びらをはじきました。はじいた菊は茹でて夕食の一品に。きゅうりとかにかまに菊の黄色が加わることで和え物が一気に鮮やかになりました。作業を一緒にした利用者さんも、自分たちが収穫した菊だと笑顔で食べていました。スーパードでは二年を通して、野菜が販売されていますが、獲れたての味はその時期にしか味わえません。「旬」を大切にこれからも様々なメニューを提供していきます。

ど・れ・み Café 開店!

山郷館児童デイサービスセンターとれみ
生支障員 神成 暁



に扮して準備万端です。

デイサービス弘前の利用者さんや、他児童がチケツトを手を訪れると「お飲み物は何にしますか?」と、店員さんの元気な声でお出迎えです。お客様の希望に沿った飲み物を添えたケーキセットをお渡します。外でお茶をすると雰囲気が変わり、いつもに増して会話に花が咲きます。大人と子どもが笑いに包まれ、大盛況で幕を閉じました。



9月29・30日の2日間、デイサービスセンター弘前と合同でカフェを開催しました。屋外テラスをカフェ風に装飾し、児童がエプロンをつけてカフェ店員

